

FunBiz

中間事業報告書 株式会社セガ第47期 • サミー株式会社第30期
(2004年4月1日～2004年9月30日)



SEGA-SAMMY
HOLDINGS

セガサミーグループのビジョン

すべての事業分野でプレゼンスを確立し、

世界
No.1

総合エンタテインメント企業になる

- 全世界をターゲット市場とする
- 低年齢層から高年齢層まで、すべての世代をターゲットとする
- ローテクから先進技術まで、あらゆる技術・アイデアを駆使する
- グループ内のコンテンツを最大限有効活用および相互利用する
- グループ内シナジーを発揮できる事業分野を拡大する

株主の皆様へ



代表取締役会長兼社長
里見 治

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。株式会社セガ(第47期)およびサミー株式会社(第30期)(2004年4月1日から2004年9月30日まで)の事業報告にあたりまして、ここに謹んでご挨拶申し上げます。

セガおよびサミーの具体的な事業報告は両社長にゆだねることとして、私からはセガサミーホールディングス設立のご報告をさせていただきます。

2004年10月1日、株式会社セガとサミー株式会社は、世界的な総合エンタテインメント企業としてさらに強固な地位を確立するため、両社の経営資源を統合し、企業価値を最大限に高めることを目的として、持株会社セガサミーホールディングス株式会社を設立いたしました。当持株会社は、グループ経営の全体最適化のため、企画、運営、管理機能に特化し、キャッシュ・フロー配分や、設備投資計画などについて、機動的かつ柔軟に対応することで、効率的なグループ経営を実現いたします。

この経営統合により、真の意味での総合的な、そして強力なエンタテインメント企業を創造することが可能であると考えています。両社の間には事業の競合や取引先の重複が少なく、

本経営統合を通じて事業上の相互補完および収益安定化が実現可能であることに加えて、コンテンツや開発ツールのマルチユースなどの資産の効率活用や、遊技機とアミューズメント機器の部材共同購買により増大するバイイングパワーなどにより、大きなシナジー効果も実現できると考えています。

この経営統合後の中期事業計画では、2007年3月期において売上高6,250億円、経常利益1,220億円、当期純利益680億円を目標としています。

今後は、サミーの高成長力・高収益力とセガの世界的ブランド力、さらには両社の高度な技術開発力を融合することで、世界中のあらゆる年代の人々に対しエンタテインメントを提供し、世界No.1の総合エンタテインメント企業を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも躍進し続けるセガサミーグループをご支援賜りますようお願い申し上げます。

2004年12月
セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長
里見 治

株主の皆様へ



株式会社セガ 代表取締役社長 (COO)
小口 久雄

株主の皆様には、平素格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、株式会社セガの第47期中間期(2004年4月1日から2004年9月30日まで)の事業概況につきまして、ご報告申し上げます。

アミューズメント機器販売事業におきましては、引き続きアミューズメント施設の新規店舗開設が業界全体で積極的に行われる中、前期からのヒット商品である「MJ2」や、「ガチャマンボ」などが好調に推移いたしました。

アミューズメント施設運営事業では、既存施設が売上高で計画をやや下回ったものの、利益についてはほぼ計画通りの水準を達成いたしました。事業全体としては、新規事業の「甲虫王者ムシキング」が前期に続き好調に推移したことなどにより、売上高、利益ともに期初の計画を上回る結果となりました。

また、コンシューマ事業につきましても、欧米でのリピートオーダーが計画を大幅に上回るとともに、発売を下期に予定していた「Out Run2」を上期に前倒して販売し、好調に推移したことなどにより、計画を大幅に超過達成いたしました。

以上の結果、セガの当中間期は、連結売上高931億29百万円、

連結経常利益55億98百万円、そして連結中間純利益10億25百万円となり、売上高、利益のいずれについても期初の計画を上回ることができました。

2004年10月1日、セガとサミーは、世界No.1の総合エンタテインメント企業の創造を目指し、持株会社「セガサミーホールディングス株式会社」を設立いたしました。今後セガは、新たにスタートを切ったセガサミーグループの中核企業として、これまでも増して積極果敢に事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解と、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年12月
株式会社セガ 代表取締役社長
小口 久雄

株主の皆様へ



サミー株式会社 代表取締役社長 (COO)
吉田 賢吉

株主の皆様には、平素よりのご支援に心より感謝申し上げます。

早速ではございますが、サミー株式会社の第30期中間期(2004年4月1日から2004年9月30日)の事業概況につきまして、ご報告申し上げます。

パチスロ遊技機事業では、昨年10月より販売を開始いたしましたSammyブランドパチスロ機「北斗の拳」の販売が引き続き好調であり、またRODEOブランドでの販売やOEM(相手先商標製品)供給も堅調であったことから、前年同期比で大幅増となる42万4千台の販売を記録いたしました。

パチンコ遊技機事業につきましては、継続的な開発力強化により、パチンコメーカーとしてもブランド力を着実に向上させてまいりました。その結果、前年同期を大幅に上回る12万2千台の販売を達成いたしました。

業務用アミューズメント機器事業におきましては、子供向けメダルゲーム機などの販売が堅調に推移いたしました。

家庭用テレビゲームソフト事業におきましては、パチスロ機「北斗の拳」をリアルに再現したシミュレーションゲームソフト「実戦パチスロ必勝法! 北斗の拳」の出荷が87万本を超え、当社過去最多の出荷本数を記録いたしました。

その他事業では、2004年7月に大阪道頓堀に複合娯楽施設「サミー戎(えびす)プラザ」をオープンいたしました。また、「サミー777(スリーセブン)タウン」をはじめとした携帯パチスロコンテンツの会員数も引き続き増加しています。

以上の結果、サミーの当中間期は連結売上高1,982億69百万円(前年同期比155.0%の増加)、連結経常利益675億20百万円(同203.6%の増加)、連結中間純利益404億50百万円(同303.2%の増加)と大幅な増収増益となりました。なお、当中間期末現在のサミーの株主様に対しては、1株につき40円の間配当を実施させていただくことといたしました。

今後、サミーはセガとともに、セガサミーグループとして、真の意味での世界的な総合エンタテインメント企業を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2004年12月
サミー株式会社 代表取締役社長
吉田 賢吉

セガサミーホールディングスとは？

セガとサミーは、真の意味での総合かつ強力な総合エンタテインメント企業の創造という共通のビジョンを実現するために経営統合を果たしました。世界を舞台に大なる飛躍を目指す当グループをより深くご理解いただくために、経営統合の概要を4ページから8ページでご紹介いたします。

統合スキーム

共同株式移転方式により2004年10月1日付で持株会社「セガサミーホールディングス株式会社」を設立、セガとサミーは完全子会社となり持株会社の傘下に入りました。その際、サミーの普通株式1株に対し持株会社の普通株式1株が、セガの普通株式1株に対し持株会社の普通株式0.28株がそれぞれ割り当てられました。



売上高規模

2005年3月期予想連結売上高*

本経営統合により誕生したセガサミーホールディングスは、売上高の面で極めて高いプレゼンスを有する総合エンタテインメント企業となりました。



* 2004年11月15日現在の各社予想数値

経営統合の

目的

- 真の総合エンタテインメント企業の創造
- セガ・サミーの事業補完性
- 国内外事業におけるシナジーおよび効率化の追求
- 成長戦略実現のためのグループ財務・管理基盤の強化

経営統合の

効果

グループ経営資源の有効活用

1. 人材の再配置

人材を適材適所に配置することで、優秀な人材を最大限活用することが可能となります。

2. コンテンツの共有化

知財・キャラクター等をさまざまな事業で相互活用することで、収益機会の多様化と、成功の連鎖が期待されます。同時に、開発コストや版権取得コストの低減も可能となります。

3. 新事業の創出

両社のノウハウやネットワークを有機的に結合することにより、これまで以上にスピーディーな新事業領域の創出が可能となります。

スケールメリット

1. 充実した製品とサービス

両社の製品、サービスを持ち寄ることで、すべての年代、客層をカバーすることができる製品・サービスのポートフォリオが構築できます。

2. 一括集中購買

版権料の削減や、部材購入時におけるバイイングパワーの最大化などが期待されます。

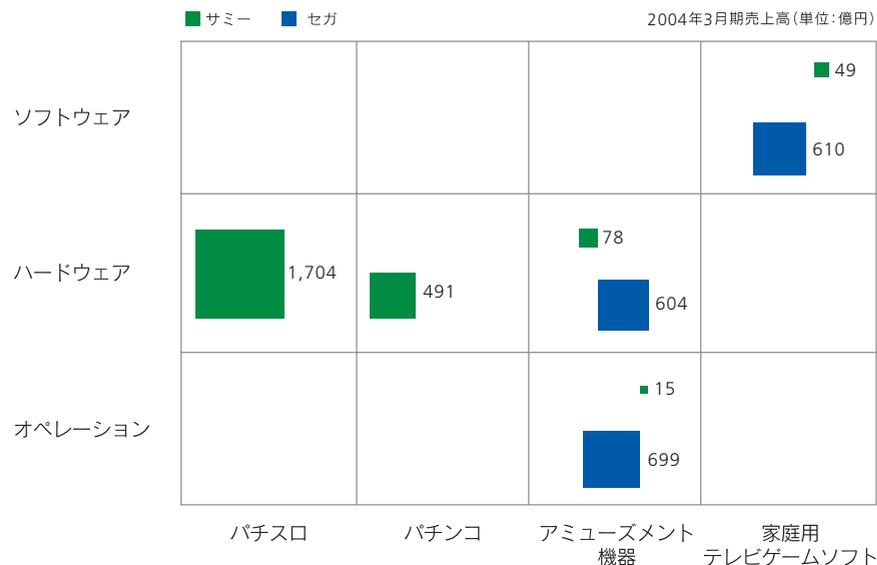
3. 両社の販売・流通ネットワークの有効活用

両社の販売・流通ネットワークを有効活用することで、製品販売の拡大が見込まれます。

4. グループ総合力の向上

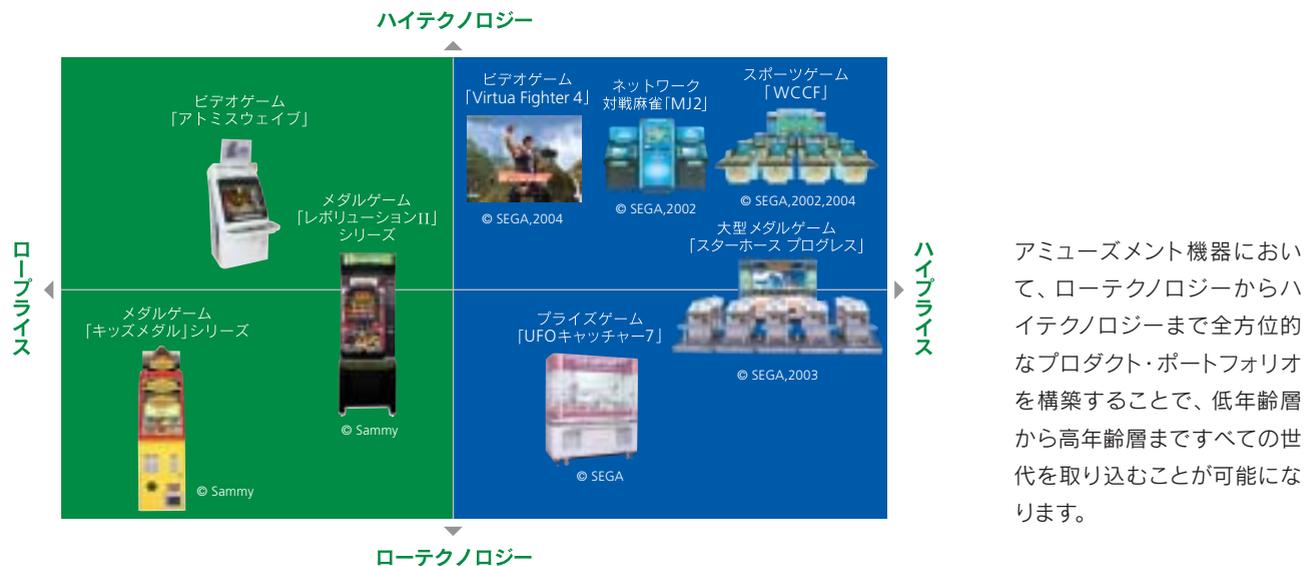
圧倒的なブランド力を確立することが可能となります。

相互補完性の高い事業ポートフォリオ



事業の重複や競争が少ない両社の経営統合は、総合エンタテインメント企業としての事業ポートフォリオの構築上、高い補完性を持つと考えています。

すべての世代をターゲットに見据えるプロダクト・ポートフォリオ



アミューズメント機器において、ローテクノロジーからハイテクノロジーまで全方位的なプロダクト・ポートフォリオを構築することで、低年齢層から高年齢層まですべての世代を取り込むことが可能になります。

経営資源の有効活用

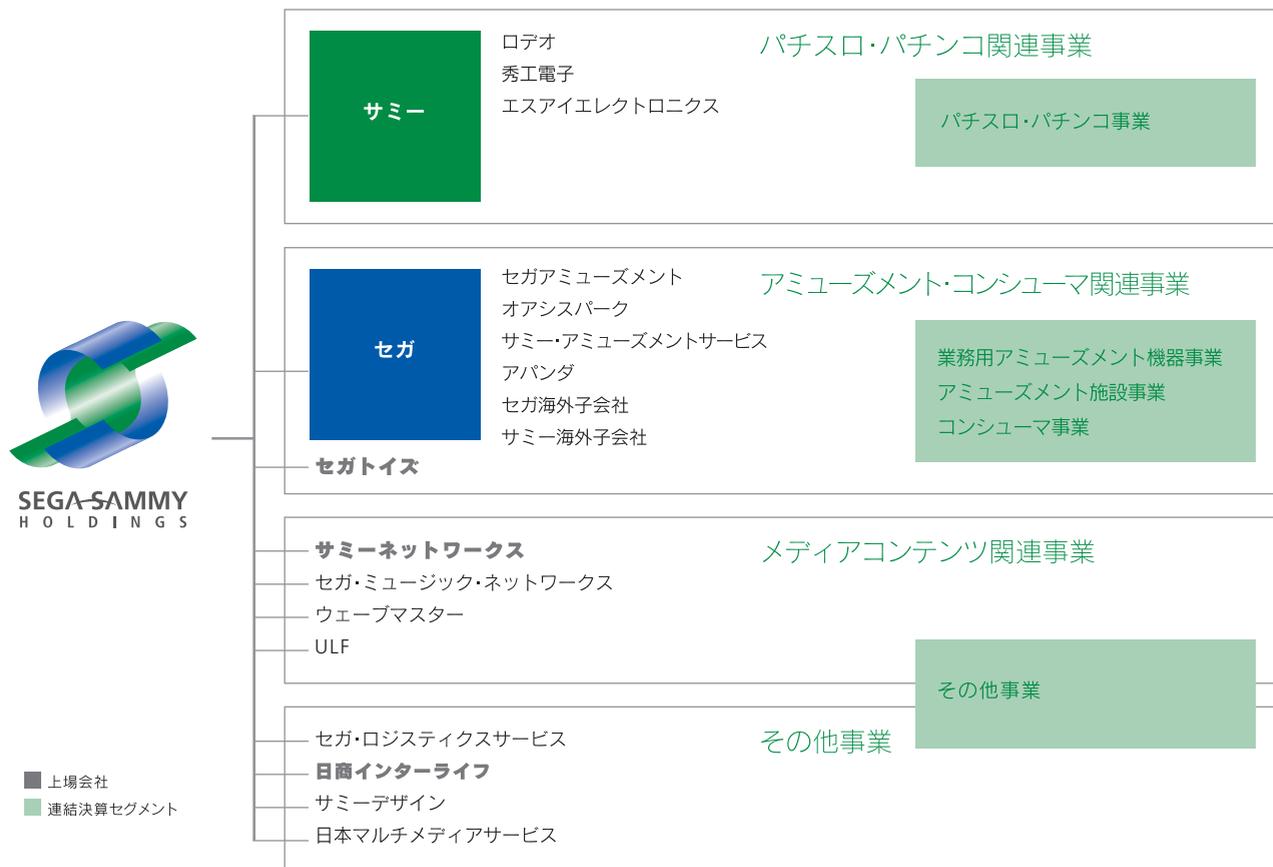


事業間でコンテンツや開発技術などの経営資源を共有化することによって、効率的な開発が可能になるとともに、ヒットがヒットを呼ぶ「成功の連鎖」も期待されます。

組織再編*

セガサミーホールディングスの傘下に入ったセガとサミーは、経営資源の有効活用と経営の効率化を図るため、両社のグループ会社を2007年3月末までに以下の4事業分野に再編する計画です。

再編後の主要関連会社の組織形態（計画）



* この組織再編計画は2004年9月末日時点のものであり、今後変更する可能性があります。

中期事業計画

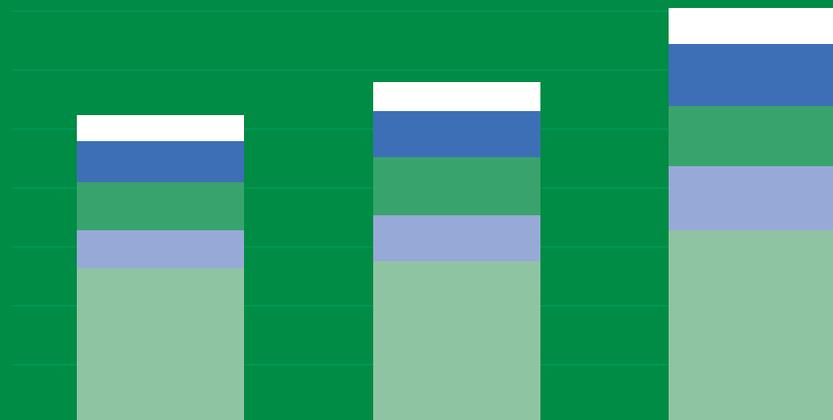
計画

セガサミーホールディングスは新たなスタートにあたり、2007年3月末までの中期事業計画を策定いたしました。この計画では、最終年度となる2007年3月期において、売上高6,250億円、営業利益1,250億円を計画しています。また、同計画では、パチスロ・パチンコ関連事業が高成長を保ち、引き続き売上構成の過半を占めていることを想定していますが、その成長を上回る勢いで、アミューズメント・コンシューマ関連事業およびメディアコンテンツ関連事業を成長させていく計画であり、その結果、売上高、営業利益の両面でそれらの事業の構成比率が上昇していくものと考えています。

2007年以降の長期的視点にたちますと、パチスロ・パチンコ関連事業以外のセグメントの売上比率がさらに高まり、収益貢献もパチスロ・パチンコ関連事業と同等、もしくはそれ以上にまで伸ばしたいと考えており、それこそが統合の最大の目標であると考えています。

売上高

- メディアコンテンツ関連・その他事業
- コンシューマ事業
- アミューズメント施設事業
- 業務用アミューズメント機器事業
- パチスロ・パチンコ事業



単位:億円

	2005年3月期*	2006年3月期**	2007年3月期**
売上高	5,280	5,400	6,250
営業利益	970	960	1,250
経常利益	940	930	1,220
当期純利益	535	510	680

* 2005年3月期の計画値は2004年11月10日の今期業績修正発表時点のものです。

** 2006年3月期以降の計画値は2004年9月16日の中期事業計画発表時点のものであり、今期の業績動向等を踏まえたうえで、今後変更する可能性があります。

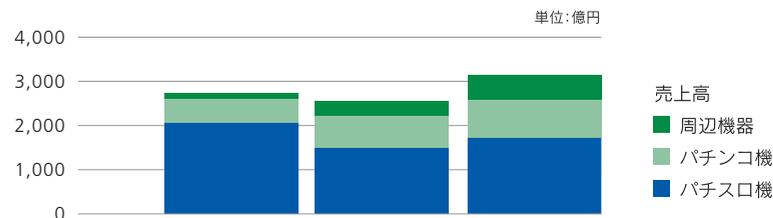
セグメント別事業計画

セグメント

* 2005年3月期の計画値は2004年11月10日の今期業績修正発表時点のものです。

** 2006年3月期以降の計画値は2004年9月16日の中期事業計画発表時点のものであり、今期の業績動向等を踏まえたうえで、今後変更する可能性があります。

パチスロ・パチンコ関連事業



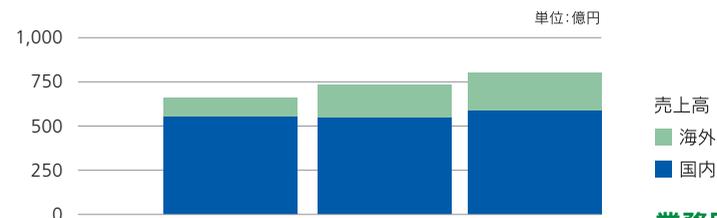
単位:億円/台		2005年3月期*	2006年3月期**	2007年3月期**
売上高	パチスロ機	2,049	1,490	1,720
	パチンコ機	560	720	860
	周辺機器	110	350	550
	合計	2,719	2,560	3,130
営業利益		915	733	957
パチスロ販売台数		621,000	510,000	560,000
パチンコ販売台数		317,000	400,000	480,000

売上高
 ■ 周辺機器
 ■ パチンコ機
 ■ パチスロ機

パチスロ・パチンコ関連事業の重点戦略

- パチスロ機市場におけるトップシェアの継続的獲得
- パチンコ機市場におけるトップシェア獲得
- 周辺機器やその他関連事業の積極展開

アミューズメント・コンシューマ関連事業(業務用アミューズメント機器事業)



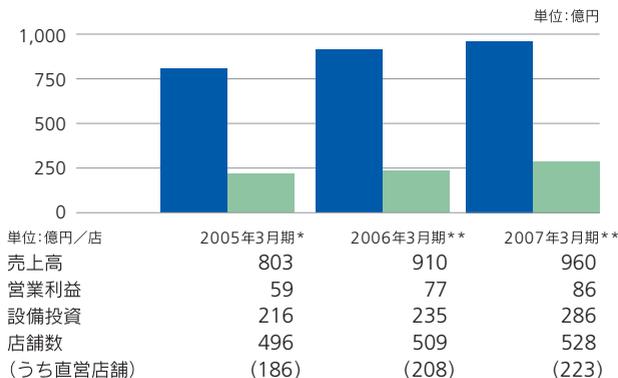
単位:億円		2005年3月期*	2006年3月期**	2007年3月期**
売上高	国内	551	546	585
	海外	110	187	217
	合計	661	733	802
営業利益		80	118	141

売上高
 ■ 海外
 ■ 国内

業務用アミューズメント機器事業の重点戦略

- 開発力の増強による製品のフルラインナップ構築
- 海外販売チャネルの拡大
- 世界におけるトップシェアの獲得

アミューズメント・コンシューマ関連事業 (アミューズメント施設事業)

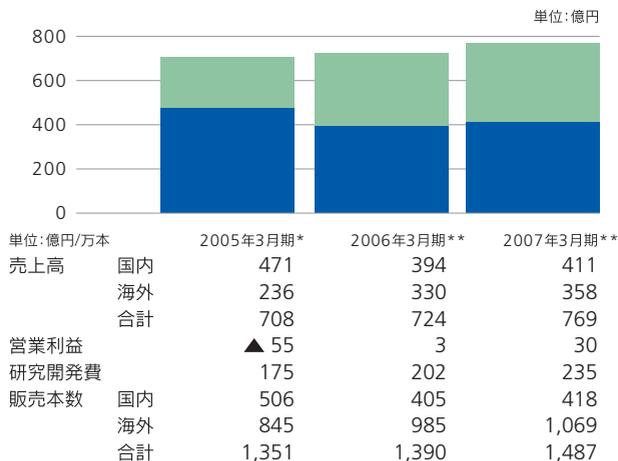


■ 売上高
■ 設備投資

アミューズメント施設事業の重点戦略

- 既存施設の差別化による収益性向上
- レンタル事業の拡大による新市場の創出
- 今までにない全く新しいコンセプトに基づく、複合型エンタテインメント施設の展開

アミューズメント・コンシューマ関連事業 (コンシューマ事業)



■ 売上高
■ 海外
■ 国内

コンシューマ事業の重点戦略

- 開発管理体制の強化
- 海外の開発体制および販売体制の整備
- 世界市場での競争力強化(収益基盤の確立)
- オンラインゲーム事業への本格参入

メディアコンテンツ関連およびその他事業



■ 売上高

メディアコンテンツ関連およびその他事業の重点戦略

- 全事業におけるコンテンツの最大活用
- メディアコンテンツの世界展開(アジア地域、欧米)
- 展開メディアの拡大による成功の連鎖の増大
- エンタテインメントの周辺事業のさらなる強化・拡大

営業概況



営業の概況

当中間期においてもセガおよびグループ各社は、エンタテインメントおよびアミューズメント業界におけるリーディングカンパニーとして事業を着実に推進いたしました。その結果、アミューズメント機器販売事業、アミューズメント施設運営事業、コンシューマ事業のすべての事業において、利益面では期初計画を上回ることができました。

連結売上高は931億29百万円(前年同期比0.4%減)、その内国内事業の売上高は821億49百万円(同0.02%減)、海外事業の売上高は109億79百万円(同2.9%減)となり、連結営業利益は55億71百万円(同26.4%減)、連結経常利益55億98百万円(同9.2%減)となりました。

また、特別利益として、貸倒引当金戻入益などにより合計10億74百万円を計上した一方、転換社債繰上償還損などにより、合計49億21百万円の特別損失を計上いたしました。

これらの結果、連結中間純利益は10億25百万円(同82.7%減)となりました。

なお、当中間期の配当につきましては誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。



事業別の状況

●アミューズメント機器販売事業

国内販売では、業界全体で中大型店の新規開設が積極的に行われていることから、「UFO キャッチャー7」、「スターホース」等の定番商品が引き続き収益に大きく貢献いたしました。プライズ販売につきましては、魅力的なキャラクター景品を提供するとともに他社とのコラボレーション効果が奏効し好調に推移しています。また、前期発売の「MJ2」や「ガチャマンボ」につきましては、引き続き計画を上回る販売を達成することができました。しかしながら、一部商品で発売時期の遅れや発売の中止を行った影響により、国内の売上高は期初計画を下回る結果となりました。

海外販売では、アジアにおける「頭文字D」の好調、欧州における「OutRun2」や米国における「DERBY OWNERS CLUB」の好調により、ほぼ計画通りに推移いたしました。

これらの結果、同事業の売上高は285億49百万円（前年同期比5.2%減）、営業利益は57億9百万円（同6.7%減）となりました。

●アミューズメント施設運営事業

同事業につきましてはおおむね堅調に推移いたしましたが、オリンピックや天候の影響を受けたことから、売上高はわずかながら期初計画を下回る結果となりました。しかしながら店舗のスクラップ&ビルドや効率化努力を継続的に行ったことが奏功し、利益面ではほぼ計画通りの実績を残すことができました。特に機器レンタルとカード販売を組み合わせるなど、従来とは異なる販売方法を行っている「甲虫王者ムシキング」は、カード販売が計画を大幅に上回る累計1億枚超を記録するなど好調に推移した結果、売上高および利益面ともに期初の計画を大幅に上回ることができました。

出店につきましては施設運営の効率化を図るため、11店舗を新規出店した一方で、26店舗を閉店いたしました。その結果、当中間期末の店舗数は463店舗となりました。

これらの結果、同事業の売上高は380億35百万円（前年同期比9.5%増）、営業利益は43億80万円（同11.7%増）となりました。



ゲームソフト「J. LEAGUE プロサッカークラブをつくろう! '04」

© SEGA, 2004

© 1996 JFA © 2002 JFA.MAX

J. LEAGUE OFFICIALLY LICENSED PRODUCTS

●コンシューマ事業

当中間期の家庭用ゲームソフトの販売本数につきましては、日本は9タイトル102万本（計画8タイトル、114万本）、米国は8タイトル168万本（計画7タイトル、99万本）、欧州は4タイトル103万本（計画11タイトル、56万本）、合計で21タイトル373万本（計画26タイトル、269万本）となりました。

国内市場におきましては、スポーツ育成シミュレーションゲーム「J.LEAGUE プロサッカークラブをつくろう! '04」(PS2)、「サクラ大戦 V EPISODE 0」(PS2)、「ソニックアドバンス3」(GBA)、「ぶよぶよフィーバー」(GBA、XB)等を発売いたしました。また一部タイトルを下期から前倒して発売いたしました。販売数量は期初計画を下回る結果となりました。この他、サミー社からの仕入れタイトルである「実戦パチスロ必勝法! 北斗の拳」が計画を上回る好調さを維持しています。

米国市場におきましては、「Sonic Heroes」(PS2、GC、XB)等のリピートタイトルや、廉価版タイトルの販売数量が大幅に計画を上回り、欧州市場においても同様にリピートタイトルが好調であったことにより、計画数量を大幅に上回りました。

これらの結果、同事業の売上高は265億44百万円（前年同期比7.2%減）となり、営業損失40億27百万円を計上いたしました。また、ともに期初計画を上回る結果となりました。



パチスロ機「北斗の拳」
© 武論尊・原哲夫 © Sammy

営業概況



営業の概況

当中間期のサミーおよびグループ各社は、主力事業である遊技機事業のパチスロ遊技機「北斗の拳」の大ヒットにより、パチスロ機トップメーカーの座を揺るぎないものとし、さらに業務用アミューズメント機器事業、家庭用テレビゲームソフト事業など他の事業にも2次的に派生させるなど、当グループの強みであるシナジー効果をいかんなく発揮いたしました。

また、2004年7月には当グループ初の総合エンタテインメント施設である「サミー戎(えびす)プラザ」が大阪・道頓堀にオープンし、今後の施設運営事業における足掛かりとなりました。

連結売上高は1,982億69百万円(前年同期比155.0%増)、連結営業利益は698億67百万円(同204.6%増)、連結経常利益は675億20百万円(同203.6%増)、連結中間純利益は404億50百万円(同303.2%増)といずれも大幅な増収・増益となりました。なお、当中間期は連結子会社の株式会社サミーネットワークスが2004年9月に東京証券取引所マザーズに上場したことともない、持分変動利益22億40百万円を特別利益に計上いたしました。

事業別の状況

●遊技機事業

パチスロ遊技機におきましては、前期より販売を開始した「北斗の拳」の人气が当中間期においても衰えることはなく、当中間期だけで318千台、前期からの累計で578千台と、業界史上最多の販売台数を記録し、現在も更新中であるなど大ヒットとなりました。本機は異なるキャラクターで描かれたパネルを数多く、かつ段階的に市場に投入することでさらに注目されました。また、ロデオブランドとして、20インチ液晶「Doughnut Vision（ドーナツビジョン）」を搭載した「ガメラハイグレードビジョン」や、曲線を効果的に用いた新筐体の「梅松パラダイス」を販売し、パチスロ遊技機全体で前中間期実績243千台、当初計画380千台を大幅に上回る424千台を販売いたしました。

パチンコ遊技機におきましては、前期に引き続き新発想・新技術を取り入れた新機種の開発に成果が現れ、「CRポパイ」や「CRリンダのどうにもとまらない」等、安定してヒット機種を供給できるようになったことにより、当中間期だけで新たに5シリーズをリリースした結果、パチンコ遊技機全体で前中間期実績30千台を大幅に上回る122千台の販売となり、「パチンコでもサミー」という市場の信頼が確立しつつあります。

また、玉貸機・メダル貸機等の遊技機周辺機器事業では、当中間期よりグループ間の連携により営業力を強化するなど、新たな事業展開の基盤構築に注力いたしました。

これらの結果、同事業の売上高は1,731億25百万円（前年同期比148.0%増）、営業利益は777億5百万円（同169.9%増）と大幅な増収・増益となりました。

●業務用アミューズメント機器事業

前期に引き続きアミューズメント施設向けに多彩なメダルゲーム機を販売した結果、売上高は56億81百万円（前年同期比73.3%増）の増収となりました。しかしながら、前期より業務用アミューズメント機器の新しいプラットフォームとして販売を開始した「ATOMISWAVE」の普及をねらい、あらゆるジャンルのソフトを市場に投入する中で、ネットワークを利用した「AW-NET」対応のソフト研究開発費の増加等により、19億99百万円の営業損失となりました。



パチンコ機「CRポパイ」
POPEYE © Hearst Holdings, Inc.
Licensed by King Features Syndicate, Inc.
© Sammy

●家庭用テレビゲームソフト事業

家庭用テレビゲームソフトの分野におきましては、「実戦パチスロ必勝法! 北斗の拳」の出荷が87万本を超え、当グループの家庭用ゲームソフトとしては過去最多の出荷本数となり、売上高は34億94百万円（前年同期比83.1%増）となりました。しかしながら、海外向けゲームソフトを中心とした研究開発費をカバーするには至らず、20億14百万円の営業損失となりました。

●その他事業

アミューズメント施設におきましては、2004年7月に大阪の繁華街・道頓堀に飲食店街やカラオケルーム、スポーツジム、さらには当グループ直営のゲームセンターなどを組み合わせた複合娯楽施設「サミー戎（えびす）プラザ」をオープンいたしました。中でも「道頓堀極楽商店街」と名付けたフロアは、大正・昭和初期をイメージしたレトロ調「食」のテーマパークとなっており、多数の来場者でにぎわいました。

携帯電話向けコンテンツにおきましては、携帯パチスロサイト「サミー777（スリーセブン）タウン」のほか、音質の良さにこだわった着信メロディーサイトを中心に会員数や売上高が急増いたしました。

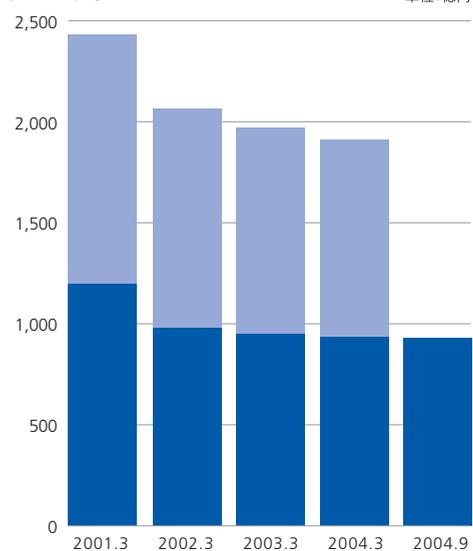
また、2003年11月に連結子会社となった株式会社日商インターライフの連結業績への寄与もあり、売上高は159億68百万円（前年同期比477.3%増）、連結調整勘定償却額を1億96百万円計上したものの、営業利益は4億97百万円となりました。

連結財務ハイライト

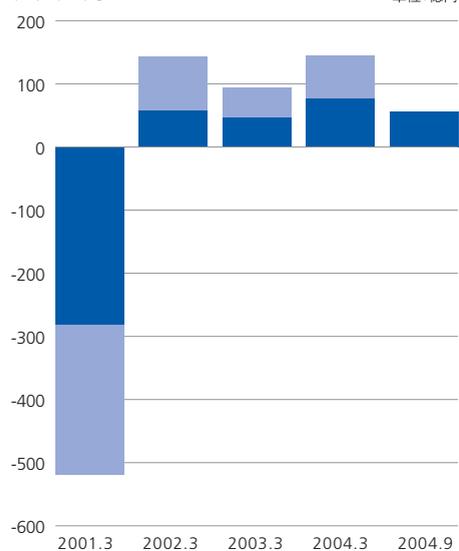
事業別売上高構成比



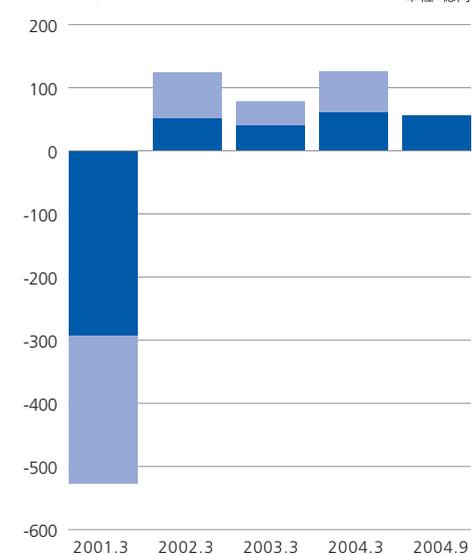
売上高



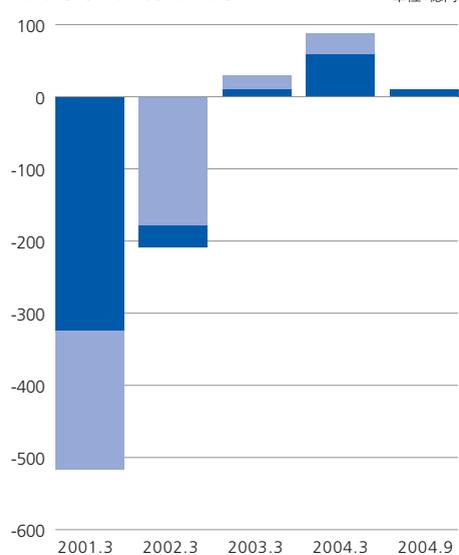
営業利益



経常利益



中間(当期)純利益



中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会社年度の 要約連結貸借対照表			前連結会社年度の 要約連結貸借対照表		
	当中間連結会計期間末 (平成16年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (平成15年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (平成16年3月31日現在)	当中間連結会計期間末 (平成16年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (平成15年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (平成16年3月31日現在)
資産の部				負債の部		
流動資産				流動負債		
現金及び預金	49,414	69,045	71,927	支払手形及び買掛金	17,847	16,963
受取手形及び売掛金	18,651	22,620	19,436	短期借入金	6,171	6,650
たな卸資産	10,783	9,035	8,865	未払法人税等	694	1,047
その他	10,565	8,795	7,348	賞与引当金	824	964
貸倒引当金	△1,392	△916	△1,421	その他	13,698	28,978
流動資産合計	88,022	108,580	106,156	流動負債合計	39,237	54,604
固定資産				固定負債		
有形固定資産	41,873	41,852	40,595	社債	12,020	21,476
無形固定資産	4,391	5,648	4,508	長期借入金	12,407	16,541
投資その他の資産				退職給付引当金	4,578	4,157
投資有価証券	13,994	13,457	13,358	役員退職慰労引当金	108	165
その他	34,775	31,807	33,477	その他	2,726	1,105
貸倒引当金	△8,306	△9,092	△9,180	固定負債合計	31,841	43,445
投資その他の資産合計	40,463	36,171	37,655	負債合計	71,078	98,049
固定資産合計	86,728	83,673	82,760	少数株主持分		
繰延資産	73	252	139	少数株主持分	620	991
資産合計	174,824	192,506	189,055	資本の部		
				資本金	127,582	127,582
				資本剰余金	2,171	2,171
				利益剰余金	13,872	12,630
				その他有価証券評価差額金	1,748	128
				為替換算調整勘定	△8,728	△9,139
				自己株式	△27,256	△33,644
				土地再評価差額金	△6,265	△6,264
				資本合計	103,124	93,464
				負債、少数株主持分及び 資本合計	174,824	192,506

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会社年度の要約連結損益計算書
	自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日	自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日	自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
売上高	93,129	93,474	191,257
売上原価	68,921	67,578	138,687
売上総利益	24,208	25,895	52,570
販売費及び一般管理費	18,636	18,325	38,090
営業利益	5,571	7,569	14,480
営業外収益	739	507	922
営業外費用	712	1,912	2,784
経常利益	5,598	6,164	12,617
特別利益	1,074	1,739	2,617
特別損失	4,921	957	4,893
税金等調整前中間（当期）純利益	1,751	6,946	10,341
法人税、住民税及び事業税	366	1,006	2,169
法人税等調整額	295	45	△220
少数株主損益	63	△37	△368
中間（当期）純利益	1,025	5,932	8,760

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間	前連結会社年度の要約連結キャッシュ・フロー計算書
	自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日	自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日	自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,131	7,140	21,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,333	△4,067	△9,095
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,461	△35,026	△41,399
現金及び現金同等物に係る換算差額	150	△367	△528
現金及び現金同等物の減少額	24,512	32,321	29,438
現金及び現金同等物の期首残高	71,922	101,361	101,361
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	47,409	69,040	71,922

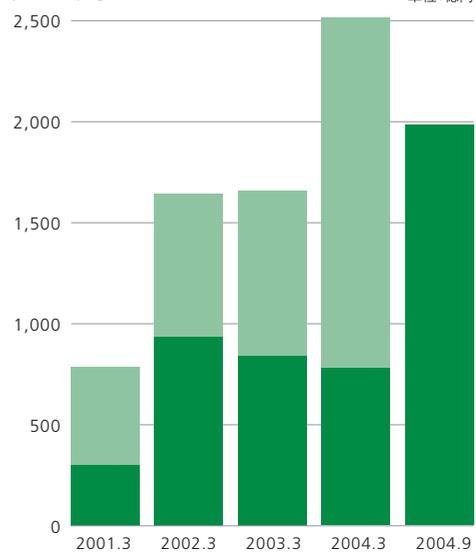
連結財務ハイライト

■ 通期 ■ 中間期

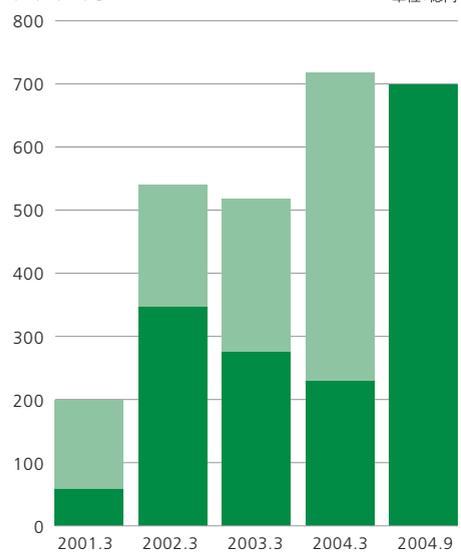
事業別売上高構成比



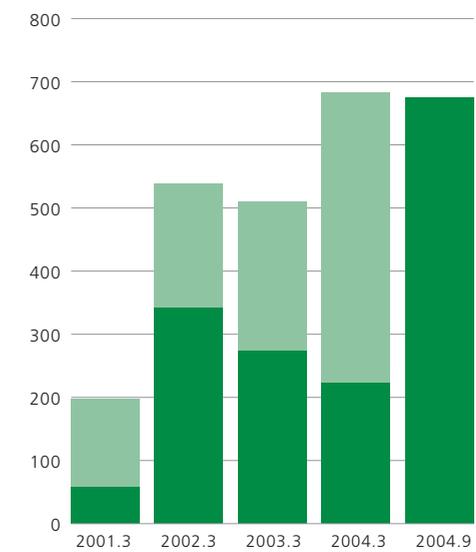
売上高



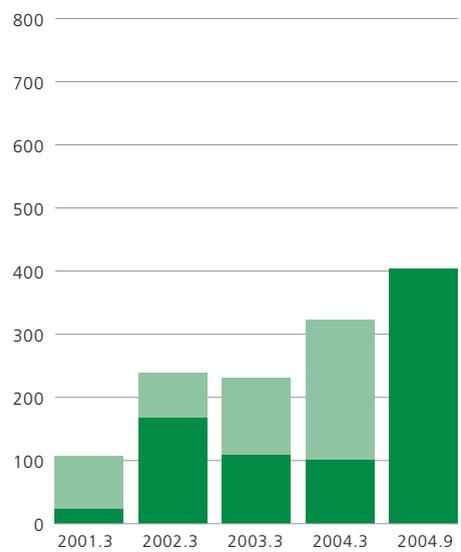
営業利益



経常利益



中間(当期)純利益



中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会社年度の 要約連結貸借対照表			前連結会社年度の 要約連結貸借対照表		
	当中間連結会計期間末 (平成 16 年 9 月 30 日現在)	前中間連結会計期間末 (平成 15 年 9 月 30 日現在)	前中間連結会計期間末 (平成 16 年 3 月 31 日現在)	当中間連結会計期間末 (平成 16 年 9 月 30 日現在)	前中間連結会計期間末 (平成 15 年 9 月 30 日現在)	前中間連結会計期間末 (平成 16 年 3 月 31 日現在)
資産の部				負債の部		
流動資産				流動負債		
現金及び預金	99,888	36,802	66,863	支払手形及び買掛金	43,013	55,885
受取手形及び売掛金	69,136	44,716	94,119	短期借入金	5,118	6,362
たな卸資産	23,814	21,123	19,812	未払法人税等	30,232	30,691
その他	18,097	13,936	19,938	賞与引当金	1,870	1,403
貸倒引当金	△ 256	△ 418	△ 651	その他	13,879	18,699
流動資産合計	210,681	116,160	200,081	流動負債合計	94,113	113,042
固定資産				固定負債		
有形固定資産	31,185	19,091	22,999	社債	46,023	55,395
無形固定資産	3,393	3,445	3,727	長期借入金	2,396	3,114
投資その他の資産				退職給付引当金	1,273	1,131
投資有価証券	62,683	16,925	64,497	役員退職慰労引当金	1,023	988
その他	9,810	4,413	8,872	その他	5,941	7,730
貸倒引当金	△ 1,090	△ 177	△ 905	固定負債合計	56,658	68,360
投資その他の資産合計	71,403	21,161	72,464	負債合計	150,771	181,403
固定資産合計	105,982	43,698	99,191	少数株主持分		
資産合計	316,663	159,858	299,272	少数株主持分	7,319	4,882
				資本の部		
				資本金	18,221	15,374
				資本剰余金	21,037	16,364
				利益剰余金	111,989	86,378
				その他有価証券評価差額金	7,298	10,352
				為替換算調整勘定	25	32
				自己株式	△ 0	△ 15,559
				資本合計	158,572	112,987
				負債、少数株主持分及び 資本合計	316,663	299,272

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間		前中間連結会計期間		前連結会社年度の 要約連結損益計算書
	自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日		自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日		自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
売上高	198,269		77,756		251,226
売上原価	88,707		34,316		123,738
売上総利益	109,561		43,440		127,488
販売費及び一般管理費	39,694		20,504		55,811
営業利益	69,867		22,935		71,676
営業外収益	426		186		410
営業外費用	2,772		880		3,757
経常利益	67,520		22,241		68,330
特別利益	3,231		159		65
特別損失	394		120		456
税金等調整前中間（当期）純利益	70,356		22,280		67,938
法人税、住民税及び事業税	29,259		13,432		42,369
法人税等調整額	368		△1,390		△6,989
少数株主利益	278		207		363
中間（当期）純利益	40,450		10,031		32,196

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当中間連結会計期間		前中間連結会計期間		前連結会社年度の要約連結 キャッシュ・フロー計算書
	自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日		自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日		自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	46,853		2,457		36,581
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,990		△4,452		△57,368
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,987		12,371		61,128
現金及び現金同等物に係る換算差額	114		△65		△70
現金及び現金同等物の増加額	32,964		10,209		40,270
現金及び現金同等物の期首残高	66,838		26,567		26,567
現金及び現金同等物の中間期末（期末）残高	99,803		36,777		66,838

単元未満株式に関する手続き



買い足して単元株*(100株)にする場合

まず、株券等の保管振替制度をご利用になっているかをご確認いただき、その後、以下の手順で買増請求手続きを行います。

* 単元株とは、銘柄ごとに定められている最低売買単位のことです。株主の方は1単元ごとに議決権を確保することができます。

◀ 100株に満たない株式(単元未満)

1

保管振替制度をご利用の方

お取引証券会社にお問合せください

2

保管振替制度をご利用でない方

買増請求書入手

UFJ信託銀行に「単元未満株式買増請求書」を請求します。

窓口または郵送
でお手続き

「単元未満株式買増請求書」に必要事項を記入後、窓口または郵送にて提出し、「買増概算金」を支払います。

「買増概算金」とは？

買増概算金＝買増したい株式数×払込日前日の東京証券取引所における終値×1.3(1,000円未満は切り上げ)。

価格変動を見込んで、あらかじめ多めに金額を支払います。また、実際の買増代金との差額は後で精算します。

代金の精算と
株券のお受取り

買増価格・買増代金の確定後、支払った「買増概算金」と実際の買増代金との差額を精算します。その後、配達記録郵便で送付される株券を受け取ります。

株式)をお持ちの場合について ▶

売却して現金化する場合

まず、株券等の保管振替制度をご利用になっているかをご確認いただき、その後、以下の手順で買取請求を行います。

売却

買取請求

1

保管振替制度をご利用の方

▼
お取引証券会社にお問合せください

2

保管振替制度をご利用でない方

▼
買取請求書入手

UFJ信託銀行に「単元未満株式買取請求書」を請求します。

▼
窓口または郵送
でお手続き

「単元未満株式買取請求書」に必要事項を記入し、窓口または郵送にて提出します。

▼
買取代金のお受取り

買取価格・買取代金が決定し、単元未満株式買取請求書で指定した方法により代金を受け取ります。

株式お手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、下記にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

フリーダイヤル 0120-244-479 (UFJ信託銀行本店証券代行部)

フリーダイヤル 0120-684-479 (UFJ信託銀行大阪支店証券代行部)

インターネットアドレス <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、株券等の保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

会社データ

会社名

セガサミーホールディングス株式会社

英文表記

SEGA SAMMY HOLDINGS INC.

所在地

〒105-0021

東京都港区東新橋一丁目9番2号

汐留住友ビル(21階)

URL

<http://www.segasammy.co.jp>

設立

2004年10月1日

資本金

100億円

会社が発行する株式の総数

400,000,000株

発行済株式総数

133,643,226株

従業員

60名

事業内容

総合エンタテインメント企業グループの持株会社として、グループの経営管理およびそれに附帯する業務

役員および監査役

代表取締役会長兼社長

里見 治

(セガ代表取締役会長、
サミー代表取締役会長)

取締役副会長

小口 久雄

(セガ代表取締役社長)

専務取締役

中山 圭史

常務取締役

崎野 清文

取締役

吉田 賢吉

(サミー代表取締役社長)

岡村 秀樹

(セガ常務取締役)

田副 康夫

(セガ常務取締役)

常勤監査役

家田 和忠

監査役

鬼追 明夫

(サミー監査役)

荒井 良一

(セガ監査役)

平川 壽男

(サミー監査役)



SEGA-SAMMY
HOLDINGS

セガサミーホールディングスのロゴ

セガサミーホールディングスのロゴは、セガとサミーのコーポレートカラーを基調としてデザインされた両社の頭文字「S」を重ね合わせたものであり、強いシナジー効果を表しています。その翼のように張り出すありさまは、「飛躍」、「強さ」、「斬新さ」を表現したものです。

また、ロゴタイプについては、両社の協力を表わす地球の地平線をイメージした曲線をつなぐことにより表現しています。地球の地平線は、グローバルに展開していくというセガサミーグループの意思の表れでもあります。

IR インフォメーションセンター開設のご案内

セガサミーホールディングスでは、株主・投資家の皆様との双方向コミュニケーションを通じた信頼の構築を目的に、IR インフォメーションセンターを開設いたしました。株式情報、企業情報等に関してご不明な点がございましたら、下記までお気軽にお問い合わせください。

Tel: 03-6215-9954

9:00～18:00 まで(土日祝休み)

メールでのお問い合わせは ir@mail.segasammy.co.jp

www.segasammy.co.jp

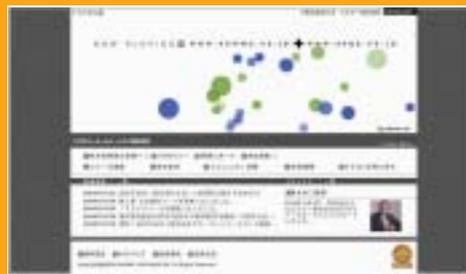
ホームページのご案内

セガサミーホールディングスのホームページでは、当グループのIR情報やニュースリリースなどの最新情報に加え、グループの事業概要をより深くご理解いただくための各種特集コンテンツをご覧いただけます。また、グループ各社のホームページへのリンクを通じて、最新の製品情報等もご参照いただけますので、ぜひご活用ください。

セガサミーホールディングスホームページ

URL: <http://www.segasammy.co.jp/>

(メールアドレスのみで登録可能なIRメール配信サービスもございます。)



FunBiz

株主メモ

証券コード

6460

1単元の株式数

100株

決算期

毎年3月31日

定時株主総会

毎年6月中

株主確定基準日

利益配当金: 3月31日

中間配当を行う場合: 9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

公告掲載新聞

日本経済新聞

当社は決算公告に代えて、貸借対照表ならびに損益計算書を当社のホームページ《<http://www.segasammy.co.jp/>》に掲載いたしております。

名義書換代理人

UFJ信託銀行株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号

同事務取扱所

UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

電話 (0120) 232-711 (フリーダイヤル)

同取次所

UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

当社名義書換代理人のUFJ信託銀行(株)のホームページでは、株式の名義書換、単元未満株式の買取または買増、その他株式に関する諸手続についてご案内しております。なお、「株券等の保管振替制度」をご利用の方はお取引証券会社へご照会ください

(UFJ信託銀行のホームページ)

<http://www.ufjtrustbank.co.jp/>



SEGA-SAMMY
HOLDINGS

セガサミーホールディングス株式会社

〒105-0021

東京都港区東新橋一丁目9番2号

汐留住友ビル(21階)